

# 高温及び台風第7号の接近に伴う農作物等の管理対策

平成30年7月2日  
新潟県農林水産部

平成30年7月2日10時48分の新潟地方気象台の発表によると、本日2日から3日にかけて高温が予想され、また3日には台風7号が対馬海峡へ進む見込みです。

台風の進路によっては、フェーンや大雨が予想されるため、今後発表される気象情報に注意し、農作物や家畜の管理等に十分な対策をとってください。

また、高温時には熱中症の危険が高くなるため、暑さを避け、水分をこまめに補給してください。

## 1 水稲

### 【高温・フェーン対策】

- (1) 異常高温、強風、フェーン時には速やかに湛水し、稲体からの急激な蒸散を防止する。ただし、高温下の長期間の湛水は根腐れにつながるため、速やかに水の更新を行う。
- (2) 早生品種は幼穂形成期間となっており、水を最も必要とする時期なので、田面の湿潤状態を維持する。
- (3) コシヒカリなど中干し期間中のほ場であっても、適宜かん水し、湿潤状態を維持する。

### 【大雨対策】

#### [事前対策]

大雨が予想される場合、用排水路を点検し、ほ場の浸・冠水を防止する。

#### [事後対策]

- (1) 大雨時は、河川への影響を考慮し、水尻は完全に落とさず、一定水位を保った上での排水に努める。
- (2) 冠水した場合は、できるだけ早く排水を図り、葉先だけでも水面上に出せるよう努める。
- (3) 浸・冠水した場合は、稲体の弱体化による病害虫の発生が予想されるので、病害虫の早期発見・防除に努める。また葉色が上昇した場合は、生育の変化に留意し、穂肥の施用量を調節する。
- (4) 穂肥時期となっているほ場では、速やかに生育診断を実施し、穂肥を施用する。

## 2 大豆

### 【大雨対策】

#### [事前対策]

中耕・培土のうね間－明きょ－排水口－排水路の連結を点検・整備し、排水路の確保に努める。

#### [事後対策]

- (1) 浸・冠水した場合は、できるだけ早く排水するように努める。
- (2) 湿害による黄化や生育不良などの症状が見られたら、窒素追肥を10 a 当たり成分で1～3 kg施用するとともに中耕・培土を行う。

## 3 野菜

### 【高温・フェーン対策】

- (1) 高温が予想され、土壌が乾燥している場合、朝夕の涼しい時間帯にかん水を行う。
- (2) 強風時は原則としてハウスを閉め切るが、高温になる場合は遮光資材を設置し、風下側を開けて換気する。
- (3) フェーン現象等により、脱水症状が見られる場合は、速やかにかん水する。
- (4) すいかは、交配中で着果していない場合は、改めて、交配を行い、着果させる。また、高温等により、日焼け果の発生が懸念されるため、ワラ等で果実を被覆する。

### 【大雨対策】

#### [事前対策]

露地ほ場や施設周辺の排水路等の点検と、明きょ等による排水路の確保に努める。特に、開花期に当たるえだまめでは排水を徹底する。

#### [事後対策]

- (1) 浸・冠水したほ場は、明きょやポンプ等を活用した速やかな排水に努める。
- (2) マルチ栽培では土壌の速やかな乾燥を図る。
- (3) 茎葉が泥により汚れた場合は、できるだけ清水で洗い流す。
- (4) 病害が発生しやすくなるので、発生状況を確認して防除を実施する。
- (5) 草勢回復のため、葉面散布や液肥等による追肥を行う。
- (6) なす等の収穫中の果菜類は、草勢低下やしおれ症状が見られる場合は、若もぎによる草勢回復を図る。

## 4 果樹

### 【高温・フェーン対策】

- (1) 長時間フェーン現象による高温乾燥状態が続く恐れがあるので、かん水設備があるほ場では可能な限り朝夕の散水を実施する。
- (2) ぶどうは縮果症の発生が助長される恐れがあるため、かん水設備をもたないほ場では過度な摘房を控える。

## 【大雨対策】

### [事前対策]

- (1) 明きよ・暗きよの排水路への接続を確認し、排水路の確保に努める。また、排水ポンプ等を使用する場合は事前に保守点検を実施し、遅滞なく排水できるよう準備する。
- (2) 収穫直前のももは台風通過後の防除日程を考慮し、灰星病防除を実施する。

### [事後対策]

- (1) 停滞水が見られる場合は明きよ排水への接続などにより排水を図る。
- (2) ももなどは熟期が早まることもあるので、収穫遅れとならないよう品質の確認を徹底する。
- (3) なし果実では黒星病、セイヨウナシ褐色斑点病の追加防除を必要に応じて実施する。

## 5 花き

### 【高温・フェーン対策】

- (1) ほ場や鉢の乾燥を防ぐため、朝夕の涼しい時間帯にかん水を行う。また、遮光資材の展張や葉面散水の実施により葉焼けの発生を防止する。
- (2) 換気扇がある施設は、稼働させて施設内の昇温抑制に努める。
- (3) 球根類の種球貯蔵にあたっては通風等に留意し、貯蔵庫内温度・湿度の低下に努める。

## 【大雨対策】

### [事前対策]

- (1) ほ場や施設周辺の排水路等の点検と、明きよ等による排水路の確保に努める。
- (2) 収穫期を迎えたユリ等の切り花類は、台風の通過前に可能な限り収穫する。

### [事後対策]

- (1) ほ場の停滞水は、根傷みの原因となるので、速やかに排水する。
- (2) 浸・冠水により茎葉が汚れた場合は、可能な限り速やかな散水により汚れを落とす。
- (3) 病害が発生しやすくなるので、発生状況を確認して適切に防除を実施する。
- (4) 花しみ障害等の発生を防止するため、高温時に収穫した切り花は速やかに涼しい日陰又は10℃程度の冷蔵庫内で水揚げを行い、蒸散の抑制と品温の低下を図る。
- (5) 施設が被災した場合は、速やかに電気系統の作動点検を行い、必要があれば修理を行う。
- (6) 切り花類や鉢物類では、降雨が続いた後の急激な日射により葉焼け（チップバーン）等の生理障害を生じやすいので、日射量に応じたこまめな遮光資材のかけ外しや換気等により適切な温度・湿度管理に努める。

## 6 畜産

### 【高温・フェーン対策】

### [事前対策]

- (1) フェーン現象が予想される場合は、熱射病等の家畜疾病を防ぐため、密飼いを避け、送風機、

細霧システム等の暑熱対策を徹底し、家畜の体感温度の低下に努める。

- (2) また、飼料を小分けして多回数給与や朝・晩の涼しい時期に給与するなど急激な体温の上昇を防ぐ。新鮮な水を常に十分飲水できるようにする。

[事後対策]

- (1) 家畜の観察を励行し、異常のある場合は速やかに獣医師の診療を受ける。
- (2) 死亡家畜は、速やかに化製場に搬入する等の確な処理を行う。

【大雨対策】

[事前対策]

- (1) あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機による搾乳や生乳冷却等について、早急に対応できるよう努める。
- (2) 畜舎への浸水等により家畜への被害が生じる恐れがある場合には、事前に避難場所を確認し状況に応じて家畜を避難させる等の適切な処置を行う。
- (3) 畜舎への雨水の浸入を防ぎ、配合飼料・乾草等は、濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。
- (4) ほ場から搬出していない牧草のラップサイレージ等、調製済みのロールベールは、水はけの良い場所に搬出し、縦置きにする。

[事後対策]

- (1) 畜舎への浸水があった場合は、排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に搾乳機器は点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。
- (2) 冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。

## 7 きのこと

- (1) ハウス内の高温による生育障害を防ぐため、換気による適切な温度・湿度管理に努める。
- (2) 高温下では、きのこの品質低下が著しいので、適期収穫に努める。
- (3) 収穫したきのこは、速やかに保冷库等で保管する。
- (4) 露地栽培については、通風確保や散水などによる温度・湿度管理に努める。
- (5) 極端な温度変化による影響の早期発見に努め、適切に対応するよう留意する。